研究の窓

実務と教育に軸を置き、建築の新たな可能性を探究し続ける。

建築学部
建築学科
教授

諸江 一紀

【学　歴】

1998年3月	東京都立大学工学部建築学科 卒業
2003年3月	東京都立大学大学院工学研究科建築学専攻 修了

【職　歴】

2000年~2001年	高松伸建築設計事務所 勤務
2003年~2007年	シーラカンスアンドアソシエイツ 勤務
2008年1月	諸江一紀建築設計事務所 設立
2021年4月	愛知淑徳大学創造表現学部 准教授
2024年4月	愛知淑徳大学創造表現学部 教授
2025年4月	愛知淑徳大学建築学部 教授　文化創造研究科 教授（現在に至る）

一級建築士として多彩な建築を手掛けながら、設計や建築学の教育に力を注ぐ諸江先生。「現場」を重視し、自分の手や頭、心を動かす学びの機会を用意して、学生たちの設計の力、協働する力、柔軟な思考力を鍛えています。「建築は多様な人々の協力のもとでつくられるもの。自分の考えに縛られず、他人のアイデアもおもしろがろう」と語りかけ、次代を担う学生たちの成長を後押ししています。

建築には、人と環境、人と社会を関係づける力があると信じています。自然や街の中に建築が生まれるだけで、その内外における感覚や認識は大きく変化します。建築による新たな関係づくりの方法を、実務と教育を並行しながら模索しています。

実務では、住宅に加え、シェアハウス、大学施設、工房などの設計に携わってきました。

シェアハウスでは、共用部での交流と個室での籠もりの中間の居場所として、「共用部にひとりでいても自然でいられる空間」を構想しました。他者の気配を感じつつも干渉しない距離感が、居心地の良さを生み出します。また、規模の大きいシェアハウスは近隣にとって異質な存在となり得るため、外観を小さな箱の集合として分節し、その間に庭を配することで、街に対して潤いと連続性をもたらしました。

陶器の卸団地における工房では、背後に隣接する道の駅から人の流れを引き込む「ゲート」としての建築を計画しました。ものづくりの場と売買の場との分断を、空間的な接続によって解消する試みです。さらに、団地内に残るバブル期の和風庭園とも連続させることで、過去と未来を架橋する時間的な接続を意図しました。

大学のゼミでは、設計競技に積極的に取り組んでいます。テーマに即したリサーチ、膨大な試行錯誤、細部にまで意識を行き届かせたプレゼンテーションといった実務的なプロセスを学生が経験することで、建築設計の総合力が養われます。この4年間で日本建築学会コンペ等において14の賞を受賞し、さらに卒業設計では学外コンテストで10の賞を得ました。対外的な挑戦を重ねることで小さな自信を積み重ね、社会においても主体的に活躍していくことを期待しています。

諸江先生の主要作品

- 御器所の住宅（2012年竣工、第28回日本建築学会東海賞）
- 一ツ木の住宅（2016年竣工、第31回すまいる愛知住宅賞 名古屋市長賞）
- LT城西2（2017年竣工、2017年度グッドデザイン賞、住まいの環境デザイン・アワード2018グランプリ、第29回すまいる愛知住宅賞 名古屋市長賞）
- 名古屋大学オークマ工作機械工学館（2020年竣工、第55回中部建築賞）
- 金正陶器工房・茶房（2025年竣工）